

上場企業

配当最高の4兆5000億円

自社株買いい5兆円超

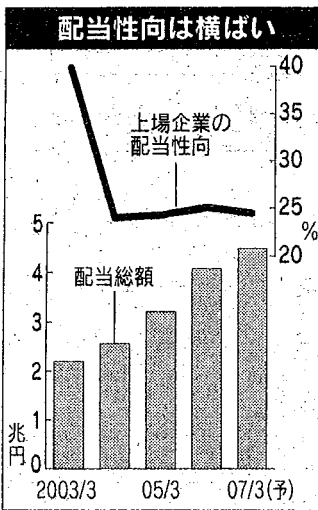
上場企業が株主への利益配分を拡大している。二〇〇七年三月期に株主に支払う配当金の総額は、前期比一〇%増の四兆四千九百億円と、過去最高を更新する見通しだ。自社株買いも四十一月で五兆円を突破、すでに過去最高だった前期を上回った。好調な業績に連動して利益配分を拡大する企業が増えている。ただ、配当は利益の増加ほど伸びず、配当性向は横ばいにとどまっておき、投資家から一段の利益配分を求める声が高まる可能性もある。(配当性向は3面「きょうのこぼし」参照)

今期業績連動で株主配分

配当金の総額は、三月「新興市場を除く」のうち、期決算の上場企業(金融、〇三年三月期から継続比対象に集計した。)

今期の主な大幅増配企業
(単位円、カッコ内は前期比増加率%)

企業名	予想1株当たり配当金
東京エレクトロン	92(67)
日清食品	50(67)
住友金属鉱山	22(57)
コマツ	27(50)
松下電器産業	30(50)
信越化学工業	50(43)
三井物産	34(42)
NTT	8,000(33)
NTTデータ	4,000(33)
ニコン	13(30)



較可能な計千八百一社を
増配が目立つのは、為
円増の三十四円とし七期

替相場の円安を追い風に
連続で増配する。

利益を伸ばす輸出関連企
業。自動車・部品は配当
%増える。松下電器産業

総額が二〇%増える。日
産自動車は年間配当を五

円と七期連続の増配を予
定。集計対象ではないが、

みずほフィナンシャルグ
ループが三千円増の七千

円にするなど、大手銀行
でも増配が目立つ。

自社株買いも活発だ。
野村証券の集計では四

十一月の自社株買い実施
額は約五兆四千三百億円

(速報ベース)で、過去
最高だった前期の五兆一

千億円を超えている。
武田薬品工業は今期か

ら初めて自社株買いを始
め、すでに千五百億円超

を買入れた。JFEホ
ールディング 十一月

に千二百億円を上限とす
る自社株買いを初めて実
施すると発表。自社株買
いは株式を市場から吸い
上げ、一株利益の増加に
つながるため、利益配分
と位置付けられる。

相次ぐ増配や自社株買
いの背景には、配当性向
など株主配分に関する目
標値を明示する企業が増
えていることがある。東
京エレクトロンは連結配
当性向二〇%を公約。ホ
ンダは純利益の三割を配
当と自社株買いに回す方
針を表明している。

各企業は将来の成長に
向け設備投資も加速。九
月中旬期の上場企業の純
現金収支はマイナスとな
った。本業で稼いだ以上
の投資をしたことを意味
するが、この数年の業績
回復で手元資金は積み上
がっており、株主配分の
原資は依然豊富だ。

一方、米国の〇五年度
実績はS&P500ペー
スで二九%に達してお
り、日本の配当性向は米
国をなお下回る。